

都民とともに動かした。



2023年度予算で実現へ

日本共産党都議団は、物価高騰とコロナ禍から都民の命と暮らし、営業を守り抜き、東京の経済を立て直す立場から、小池知事に重点要望125項目、全体では約2350項目の来年度予算要望を提出しました(右写真、12月22日)。都民の声と運動、日本共産党都議団の論戦が、都政を大きく動かしています。

第2子保育料ゼロ

日本共産党都議団は、質問や知事への予算要望でも実現を求めてきました。同時に、保育の質を確保するため、保育士を増やして保育士ひとりあたりの子どもの人数を減らすこと、賃上げや処遇改善を行うことを求めていきます。



感震ブレーカー無料配布

地震が起きた時に、傷ついた電気配線やコード、電気ストーブなどによる「通電火災」を防ぐ感震ブレーカー。木造密集地域に無料配布が行われます。日本共産党都議団はくりかえしの問題を提起し、粘り強く実現を求めてきました。



英語スピーキングテスト イーサットジェイ ESAT-J

都立高校入試への活用は中止を

11月27日に行われた、中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) の実施状況について、4団体(注)で調査を行いました。



調査結果はコチラ

▶「中学校英語スピーキングテスト」の実施状況について、4団体で行った調査結果について記者会見(12月5日)



(注) 4団体とは…▼入試改革を考える会、▼都立高校入試英語スピーキングテストに反対する保護者の会、▼都立高校入試への英語スピーキングテスト導入の中止を求める会、▼中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) の都立高等学校の入学選抜への活用を中止するための都議会議員連盟

アンケートでハッキリ3つの大問題

- 1 前半組から後半組に情報ダダ漏れ
- 2 イヤーマフ越しに他の受験者の解答音声
- 3 自分の声とともに周りの人の声が録音

痴漢ゼロ大きく前進

日本共産党都議団が本気の痴漢対策を求めてから2年。昨年4月に都の「男女平等参画推進総合計画」に痴漢対策が明記され、各分野で対策が進み始めています。年末には、東京都に対して、受験生を狙う痴漢加害の防止と被害者救済について、申し入れを行いました。

都営地下鉄における新たな痴漢撲滅キャンペーン



受験シーズンに合わせて

1月11日(水)～3月10日(金)

▼車内や駅での警戒強化、放送での呼びかけ、▼SNSでの情報発信、▼新たな痴漢対策ポスターの掲示、新たな動画を作成し駅改札や液晶モニターでの放映などが実施されます。

都営地下鉄大江戸線

女性専用車両を導入しました

1月18日(水)～ 4号車

光が丘駅発 六本木・大門方面
7:00から8:30までの間に、光が丘駅を発車する全ての列車
都庁前駅発 飯田橋・両国方面
7:15から8:10までの間に、都庁前駅2番線を発車する全ての列車

若者団体が出した都営地下鉄全線に女性専用車両導入を求める陳情が全会一致で趣旨採択。共産党都議団も実現を求めてきました。

気候危機対策まったなし

太陽光パネル設置「義務化」をはじめとする環境確保条例(一部改正)が、日本共産党都議団も賛成し成立(自民・維新他は反対)。都民誰もが納得してとりくめる対策を求めました。



◀「気候危機対策都内自治体アンケート調査結果」を発表。都の支援拡充を求めました。結果は、コチラ↓



▲神宮外苑再開発の中止・抜本的見直しを求めて論戦。国会でも議論が発足しました。

統一協会問題ヒアリング



全国霊感商法対策弁護士連絡会(全国弁連)の久保内弁護士を招いて超党派でヒアリング。相談窓口の設置、相談対応の研修、相談活動を行う団体への支援など、意見交換を行いました。